

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんげんだいにんぎょうげきせんたー		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人現代人形劇センター		<a href="http://www.puppet.or.jp/">http://www.puppet.or.jp/</a>
代表者職・氏名	理事長 塚田千恵美		
制作団体所在地	〒 211-0035	最寄り駅(バス停)	井田営業所
	神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
電話番号	044-777-2228		
ふりがな 公演団体名			団体ウェブサイトURL
	デフ・パペットシアター・ひとみ		<a href="http://deaf.puppet.or.jp/index.html">http://deaf.puppet.or.jp/index.html</a>
代表者職・氏名	代表 榎本トオル		
公演団体所在地	〒 211-0035	最寄り駅(バス停)	井田営業所
	神奈川県川崎市中原区井田3-10-31		
制作団体 設立年月	1969年4月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	代表理事:塚田千恵美 業務執行理事:松澤文子 理事:大杉豊、小川信夫、平野英俊、北條秀衛、築瀬恵子 監事:桑野雄一郎		理事:7名 評議員:7名 監事:1名 職員:10名
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	吉村 衣世
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	菅原 真弓
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	<a href="mailto:iyo.yoshimura@puppet.or.jp">iyo.yoshimura@puppet.or.jp</a>		

<p><b>制作団体沿革</b></p>	<p>1969年 4月 文部省より財団法人設立認可、乙女文楽、和泉流狂言の稽古を開始  1970年 全国のからくり人形の本格調査開始  1973年 海外人形劇団招聘事業開始  1974年 出版事業開始  1975年 全国の伝統人形芝居の本格的調査開始、ヨーロッパ人形劇の実情調査開始  1978年 アジア人形劇の実情調査開始  1979年 国際児童年記念「人形劇カーニバル飯田」を提唱、事務局を担当  1980年 ろう者と聴者との協同による人形劇団デフ・パペットシアター・ひとみ 設立  1983年 デフ・パペットシアター・ひとみ初海外公演(チェコ)、  国際デフ・パントマイム・フェスティバル審査員特別賞受賞  2011年 4月 公益財団法人へ移行</p>			
<p><b>学校等における 公演実績</b></p>	<p>2011年度 12校で公演、ワークショップ  2012年度 11校で公演、ワークショップ  2013年度 25校で公演、ワークショップ  2014年度 20校で公演、ワークショップ  2015年度 20校で公演、ワークショップ  2016年度 17校で公演、ワークショップ  2017年度 19校で公演、ワークショップ  2018年度 24校で公演、ワークショップ  2019年度 16校で公演、ワークショップ  2020年度 8校で公演、ワークショップ  2021年度 11校で公演、ワークショップ  2022年度 12校で公演、ワークショップ</p>			
<p><b>特別支援学校等 における公演実績</b></p>	<p>2011年度 28校で公演、ワークショップ  2012年度 15校で公演、ワークショップ  2013年度 3校で公演、ワークショップ  2014年度 6校で公演、ワークショップ  2015年度 14校で公演、ワークショップ  2016年度 4校で公演、ワークショップ  2017年度 16校で公演、ワークショップ  2018年度 15校で公演、ワークショップ  2019年度 13校で公演、ワークショップ  2020年度 (5校 感染症予防対策によりワークショップ中止)  2021年度 3校で公演、2校でワークショップ(4校感染症予防対策により中止)  2022年度 7校で公演、12校でワークショップ  *ろう学校またはろう者の児童が中心の支援学校を含みます。</p>			
<p><b>参考資料の有無</b></p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://youtu.be/McxtYQzV_kQ">https://youtu.be/McxtYQzV_kQ</a></p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよび</p>	<p>ID:</p>		
	<p>パスワード</p>	<p>PW:</p>		

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 デフ・パペットシアター・ひとみ 】

対象	小学生(低学年)	○			
	小学生(中学年)	○			
	小学生(高学年)	○			
	中学生	○			
企画名	ろう者と聴者が共につくる防災人形劇『稲むらの火』				
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	『稲むらの火』 脚本:宇野小四郎、中村孝男 演出:伊東史朗、中村孝男 美術:片岡昌 音楽:佐藤謙一、やなせけいこ 舞台監督:榎本トオル 舞台監督助手:森本勝人 照明プラン:あおきたかし アクセシビリティ監修:大杉豊				公演時間 55 分
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名		
	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況		
演目概要	稲むらの火は、1854年の安政南海地震による津波に際しての出来事をもとにした物語。小泉八雲の英語による作品を、中井常蔵が翻訳・再話したもので、文部省の教材公募に入選し、1937年から10年間、国定国語教科書(国語読本)に掲載された。防災教材として高く評価されている。地震後の津波への警戒と早期避難の重要性、人命救助のための犠牲的精神の発揮を説く。 人形劇:40分、おまけタイム(実演を交えた防災のお話):15分				
演目選択理由	お芝居は、手話と音声のせりふ、そして人形の動きで進行します。きこえない子にも、きこえる子にも、楽しんで観てもらえる作品です。手話は日常会話で用いる手話ではなく、演劇的に美しく再構成しています。手話を知らない子どもたちにも、この機会に手話の美しさをぜひ知ってもらいたいと思います。				
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	演目冒頭の踊りのシーンを、子供たちに舞台に立ってもらい、演じてもらいます。 セリフのないシーンなので、ワークショップでは言葉に頼らず気持ちをどう表現するかを、人形や身体をつかって、ろう者の俳優と一緒に考えてやってみます。				
出演者	デフ・パペットシアター・ひとみ 榎本トオル、鈴木文、やなせけいこ 他2名				
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 5 名	運搬	積載量: 2 t		
	スタッフ: 3 名		車長: 5 m		
	合計: 8 名		台数: 1 台		

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		4	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時30分	8時30分～11時30分 ※仕込み後、児童とワークショップ の稽古	13時30分～14時25分	なし	14時30分～16時	16時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決 定後に確認します。(大幅な変更は認 められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	11月	12月	1月	計	10日	
			10日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	10人まで
		鑑賞人数目安	200人まで

舞台は海沿いの村。村人たちは秋祭りに向けた踊りの練習をしていました。



高台に住む庄屋の五平衛は、大切に育ててきた稲を収穫し、稲を干すための稲むらを作っていました。すると、強くはないが不気味な揺れを感じます。海水が沖に向かって引いていく様子を見た五平衛は、津波が来ることを直感しました。




公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

祭りの稽古に夢中の村人たちに津波を知らせるため、五平衛は収穫したばかりの稲に次々火をつけました。それを見た村人全員が、火を消しに高台の田んぼに駆け上がって来たため、津波から助かりました。村人は、五平衛が皆を助けるために、大切な稲を燃やしたことを知り、感謝しました。



※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

終演後は、地震や洪水、火事といった災害発生時に、災害時にろう者がどのような状況に置かれるか、どんなリスクに直面するかを紹介し、それに対する備えや対処、必要な心構えを一緒に考えます。

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10人程度
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>&lt;概要&gt; 人形劇『稲むらの火』の冒頭では、お米の収穫祝いをモチーフにした舞を踊ります。そのシーンを子供たちと一緒に演じます。</p> <p>&lt;ワークショップ進行&gt; 1, アイスブレイキング～心と身体をほぐすための準備運動～ 講師陣の自己紹介と手話の紹介をします。その後、手話表現の動きをもとにした身体ゲームや、言葉を使わずに気持ちを伝えるゲームを実施します。このゲームを通じて、気分をほぐしながら自己表現することや、身体の動きで気持ちを伝える方法を体験します。 2, 稲作が昔の人にとってどんなものだったのか。喜び、期待、感謝、大切、などイメージを広げます。 3, 輪をつくるチームと人形を作るチームに分かれ、製作します。 それぞれのを人形と輪使って、全身を使った踊りを作ります。踊りの動きにどのような意味が込められているのか、また人形はどのように動かすと効果があるのかなど、講師と話をしながら作っていきます。</p> 		
<p>ワークショップのねらい</p>	<p>ワークショップでは、児童達に物語の背景を共有し、実際に演じてもらいます。その上で公演を鑑賞することで、登場人物への感情移入や、作品世界へ入り込みやすくなる効果を狙います。また、言葉を使わず気持ちを伝える方法を遊びを通して体験することで、子供たちの表現の幅を広げることを目的とします。</p> <p>もう一つの意図として、ワークショップを通じて児童とアーティストの交流をする狙いがあります。デフ・パペットシアター・ひとみは耳の聞こえないろう者と一緒に活動をしている劇団であるため、子ども達はろう者のアーティストとろう者と共に活動をしているアーティストと触れ合うことで、社会の多様性や共感性を学ぶきっかけとなります。</p>		
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>			

## 本事業への申請理由

【公演団体名 **デフ・パペットシアター・ひとみ**】

<p><b>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</b></p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>1、作品鑑賞によって児童が多様な表現を体験する デフ・パペットシアター・ひとみは1980年に結成された、ろう者と聴者が共に活動をするプロの人形劇団です。 ろう者の持つ視覚的に豊かな表現力を取り入れ、新しい人形劇を作ることを目的としています。これまでの43年間の全国での公演活動を、海外での公演も行うなど国内外で高く評価されている劇団です。 本作品『稲むらの火』は、手話と音声のせりふ、そして人形の動きで進行します。耳の聞こえに関わらず、様々な子供に楽しんで観てもらえる作品です。手話は日常会話で用いる手話ではなく、演劇的に美しく再構成しています。手話を知らない子どもたちにも、この機会に手話の美しさをぜひ知ってもらいたいと思います。</p> <p>2、楽しみながら、防災について学ぶ 1995年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災、全国各地で発生する地震災害はそのたびに大きな被害をもたらしています。加えて我が国では大雨や短時間強雨による災害も年々増加しており、子どもたちへの防災教育はますます火急の課題となっています。 今回、2008年から全国のろう学校やホールで上演し、多くの観客から好評を博した人形劇「稲むらの火」を、2023年にアップデートし、再構成しました。災害に直面したときに必要な行動はなんなのか、被害を抑えるためにどんな備えがとれるのか。人形劇「稲むらの火」を通して、ひとりひとりが防災について、そして命の重さについて考えるきっかけになればと思います。</p> <p>3、デフ・パペットシアター・ひとみとの触れ合いによる多様性の学習 作品だけでなく、デフ・パペットシアター・ひとみという劇団のことも知ることも児童にとって大きな経験の一つとなります。 耳の聞こえないことをハンディキャップとしてでなく、それを個性として取り入れることで新しい人形劇を作り出していることを知ることで、多様な人とともに生きる可能性を学びます。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 デフ・パペットシアター・ひとみはより多くの人を楽しめるための人形劇を目指しています。これまで小学校・中学校・特別支援学校と多くの学校での公演を経験しています。今回の事業においてもその経験を活かし、学校と連携して適切な対応を取っていきます。 例えば特別支援学校では障がいの種別に適切な対応をとるためにその学校との事前の打ち合わせは念入りに行います。通常学級でも、ワークショップの際に各校の先生と打ち合わせをしてその学校や観賞児童に適した対応をするよう心がけます。 舞台はステージ上ではなく、下のフロアに舞台を作ることになると考えています。その場合、客席と舞台が平面になってしまい、舞台見られない児童や見にくい児童が出ることを防ぐため、こちらで3種類のベンチを100人分前後持ち込むことで観賞する児童全てが見やすくなる環境を整えます。 出演者やワークショップの講師にはろう者とう聴者がいます。ろう者のコミュニケーションには手話に長けた劇団員の聴者が手話通訳をして行うことができます。また、学校に事前学習資料として「ろう者とのコミュニケーション方法」を簡単に紹介するプリントを共有します。 手話以外にも筆記やホワイトボードを使ってのコミュニケーション、かきポンという書くことや消すことを簡単に行える小ボードを用意することで、児童や先生とのやりとりがスムーズに行えるようにいたします。学校によっては、手話通訳者も1名参加します。</p>
---	---

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名

デフ・パペットシアター・ひとみ

】

① 離島・へき地等における公演実績  
なし

② 離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫

運搬は2トントラックで運搬可能ですので、狭い道や小さな学校での上演が可能です。  
また、照明や音響機材については、電源はコンセントからとることができ、舞台条件に柔軟に対応可能です。小規模な公演であっても、俳優歴が40年以上の劇団員をはじめ、技術力の高い芸術家が参加する作品であり、作品の質は高く保つことができます。

③ C区分申請における、小規模な公演の観点から実施する経費削減等についての工夫  
なるべく連続した日程や、同一地域での上演になるよう調整する。

C区分で事業を  
実施するに当たっての工  
夫